

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第328号
平成26年6月2日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

「包容」をキーワードに

校長 鈴木隆志

紫陽花が美しく咲く季節になりました。光八小の正門から続くプロムナードは、紫陽花ロードです。紫陽花の花は装飾花といって、花びらのように見えるところは萼片がくへんです。本当の花は目立ちませんが萼片の中心に咲いています。なんだか光っ子たちのようです。光っ子（本当の花）を真ん中にして、家族、地域、友達、学校が、4枚の萼片のように、包み込んでいるからです。一人一人の光っ子が、それぞれの萼片に包み込まれ、花のかたまり（花序）を作ります。これは学級や学年です。そして、木の全体が光八小です。忘れてはならないことは、光っ子たちは包み込まれるだけではなく、「友達」として周りの子供たちを包み込んでみてもいいということです。

4月にお示しした学校経営計画にも記したように、今年度は「包容」（広い心で相手を包み込み、受け入れること）をキーワードとしています。光八小は光っ子たちのためにあります。光八小に受容的、共感的、肯定的な雰囲気があふれる時（「包容」）、全ての光っ子たちにとって、光八小は楽しく、やりがい、生きがいのある学校になります。全ての光っ子たちを優しく包み込み、受け入れること、そして、光っ子たち自身も周りを優しく包み込み、認め合うこと、これが目指す学校像です。

光八小には特別支援学級「わかば学級」があります。開級して9年目を迎えました。これまでに、44名の卒業生を送り出し、今年度も32名のわかばっ子たちが、元気いっぱい頑張っています。光八小は、特別支援学級設置校の特色がよく生かされ、日頃から思いやりの心、互いに認め合う心が育まれています。一緒にいて当たり前。触れ合い、関わり合いを深めて、互いに仲良くしています。みんな違ってみんないい、みんなが認め合えればもっといい。今後も、わかば学級と通常の学級との交流及び共同学習をさらに推進してまいります。

「包容」の教育は、特別支援教育の推進とも言えます。特別支援教育は、特別支援学級だけのことではありません。光八小に通う光っ子たち全員に関わることなのです。だからこそ、みんなで光っ子たち全員の名前を覚え、光っ子たち一人一人の思いを汲み取り、頑張りを認め、背中を押してあげているのです。それは、光っ子たち同士でも同じです。とは言っても、我が儘な思いや自分勝手な行動までも受け入れているわけではありません。学習規律や生活規律をきちんと守らせ、「ならぬものはならぬ」の指導も貫いています。その上で「包容」をキーワードにしているのですから、光っ子たちの心の質が高いということが言えるのだと思います。大事なものは、テクニックとしての包容力を磨くのではなく、マインドとしての包容心を磨くということなのです。

冒頭で紫陽花の花のことを書きましたが、この季節、山野にはマユミの木も花を咲かせています。マユミの花はあまり目立つ花ではありませんが、秋になると、真っ赤な実が4枚の淡紅色の仮種皮に包まれて、実ります。その姿はとても美しいものです。包容の思いをマユミになぞらえて、「待つ」「許す」「認める」と考えます。光っ子たちも、美しい花や実になりますように。